2004年度防災教育チャレンジプラン
洞爺湖温泉小学校の防災教育

- 命と財産を守る防災教育
- 科学の目を持った防災教育
- 専門家、専門機関、地域と連携した防災教育
- 火山の恵みを知る防災教育

副読本「火の山の響」を活用して次の噴火に役立つような防災教育を行う

実践例1

「泥流からまちを守るために」の実践

- 泥流による扇状地としてできた洞爺湖温泉街
- 1977-78噴火でおきた泥流被害＝小学生が犠牲になった
- 2000年噴火後につくられている砂防施設
- 砂防施設建設のために移転しなければならなかった子どもたちに納得を

実践例2
「春がまたやってきた」の実践

- 噴火も自然、植生の回復も自然＝子どもにダイナミックな自然観を

↓

- 科学者と連携した生態学的混播法による植生の回復の取り組み

小さな生命（いのち）

植物たちは元気に回復し始めています。その様子を見てみましょう。
下の写真は、2000年噴火の後の様子です。木々は、灰に埋まり傷んでしまっているようです。けれども、その幹からは、青々とした葉っぱが生まれています。

2000年噴火直後の様子

傷んだ幹から、新しい枝が生まれています。

有珠山のまわりでは、昔から噴火によって何度も森林が傷つきました。
しかし、そうした森林は、その度によみがえってきました。例えば、1977年の噴火の時にも、多くの木々がたおれてしまいました。けれども、20年後には、そうした森林も回復し、今では立派な森林になっています。

1977年噴火直後の様子

1977年から約20年後の様子

『スコリア』噴火により火口から噴き上げられて急冷してできた岩石の破片で、発泡の程度が低く密度が1より大きいもの。

次の噴火までつなげるために　１
カリキュラムへの位置づけ

項目	見　出　し	教科	学年	単　元　名
3	何を持って避難しよう	総合	全	4･17　防災教育
4	避難の時には	総合	全	避難訓練
10	私たちのラジオ局	社会	5	情報･運輸
18	学校のお引越し	総合	全	11．25防災教育
30	有珠山からの贈り物	社会	5 3	農業のさかんな地域を訪ねて 温泉をひらいたころ

次の噴火までつなげるために　２
典型的な例をつくり、拡げる

- 専門家の指導を受けて、それを今後の実践につなげる
- 周辺学校に公開し、実践を拡げていく

宇井先生による本校公開研究会での授業

地域と周辺学校教員に公開した

次の噴火までつなげるために　３

モチベーションを維持するために他の災害に敏感になる

- 他地域の災害を教室で話し、児童会での取り組みをする
- 重大な災害には教員が現地に行き、子どもたちに還元する

↓

中越地震で本校教員をボランティアとして派遣

成果と課題

- 防災教育について、本校（洞爺湖温泉小学校）の考える4つの視点は、専門家や専門機関との連携の中でうまくいっている。
- それらは、専門家と顔の見える関係があってこそである
- 世紀に数回避難が必要な噴火が起こるという有珠山麓の環境では、火山防災教育を継続していくことが地域の防災力の向上につながる。しかし、今後児童はもとより教員も年々入れ替わり、噴火経験のない世代が防災教育の当事者となっていくので、如何にして防災教育の室を維持していくかが課題である。